

2019年3月期第1四半期決算説明資料

発表日時：2018年7月30日（月）16:30（今回、説明会の開催はございません）

【2019年3月期第1四半期連結決算の概要】

- スライド1では今回の決算のポイントを端的に整理しております。
- 販売電力量が減少した一方、東京電力グループ外からの託送収益の増加やグループ全社を挙げた継続的なコスト削減などにより増収増益となり、経常損益は5年連続、四半期純損益は4年連続の黒字を確保いたしました。
- 具体的な連結決算の数字については、スライド2をご覧ください。
- 売上高は、前年同期比で3.1%増の1兆3,540億円と増収、経常損益は、前年同期比で21.1%増の673億円と増益となり、特別損益を加えた四半期純損益は、164億円と減益になりました。

【セグメント別のポイント】

- スライド3、4では、セグメント別の業績をご説明いたします。
- これまで、分社化後も決算発表においては、収支比較表に基づいて決算概要をご説明してきましたが、各セグメントにおける収益力を高めるべく、グループ内マネジメントもセグメント別に行っていることから、このたび発表資料の構成を変更いたしました。
- まず、東京電力ホールディングスの業績です。スライド4のセグメント別の売上高と経常損益の表をご覧ください。
- 3基幹事業会社との経営指導料等の見直しによる取引高の減少や、主にエネルギーパートナー向けの販売電力料が減少したことにより、売上高は、前年同期比79億円減収の1,941億円となりました。
- 一方、受取配当金の増加や、修繕費等の減少により、経常損益は、前年同期比73億円増益の1,538億円となりました。
- 次に、東京電力フュエル&パワーの業績です。
- エネルギーパートナー向けの販売電力料の増加などにより、売上高は、前年同期比322億円増収の4,146億円となりました。
- また、コスト削減努力などによる固定費の減少に加え、子会社利益の増加などにより、経常損益は、208億円増益の224億円となりました。

- 続いて、東京電力パワーグリッドの業績です。
- エリア需要の減少などにより託送収益が減少したことなどから、売上高は、前年同期比 37 億円減収の 3,930 億円となりました。
- 一方、委託費・修繕費などの減少により、経常損益は、前年同期比 166 億円増益の 387 億円となりました。
- 最後に、東京電力エナジーパートナーの業績です。
- 販売電力量の減少が影響したことにより、電気料収入の減少があったものの、日本卸電力取引所を通じた販売の増加などにより、売上高は、前年同期比 120 億円増収の 1 兆 2,700 億円となりました。
- 一方、フュエル&パワーほか、他社からの購入電力料が増加しております。経常損益は、販売電力量の減少などにより、前年同期比 188 億円減少し、83 億円の損失となりました。

【連結特別損益の概要】

- 特別損益については、スライド5をご覧ください。
- 特別損失は、原子力損害賠償費として 466 億円を計上いたしました。
- これにより、特別損益は 466 億円の損失となり、前年同期比で 1,392 億円減益となりました。

【連結財政状態の概要】

- 連結財政状態については、スライド6をご覧ください。
- 自己資本比率は、四半期純損益が黒字であったことにより純資産が増加した一方、有利子負債の減少などにより負債が減少したことなどから、前年度末より 0.7 ポイント改善し 21.8%となりました。

【2019年3月期業績予想】

- 最後に、2019年3月期の業績予想については、スライド7でお示ししている通り、本年4月にお知らせした内容から変更はありません。

【参考資料（スライド8以降）、補足資料（スライド14以降）】

- スライド8以降は参考資料および補足資料です。

以上